

第241回 番組審議会

1. 日 時 平成27年4月14日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名
出席委員数 10名 (欠席委員数 0名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)
竹中 陽一 (副委員長)
—以下50音順—
石田 征広
加藤 裕一
久慈 浩介
斎藤 純
菅原 正二
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
前田 秀男 (取締役技術局長)
藤原 銀司 (取締役)
工藤 浩 (取締役営業局長)
菊地 十郎 (報道部長)
藤堂 光隆 (報道部主任)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『mit 報道特別番組 響け！復興の槌音
～東日本大震災から4年 復興を家族と共に…～』
平成27年3月8日（日）14：00～14：55

5. 議事概要

今回は、3月8日に放送した「mit 報道特別番組 響け！復興の槌音～東日本大震災から4年 復興を家族と共に…～」を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ 菊地プロデューサーからの説明

- ・東日本大震災から4年の番組ということで、今回は「家族」をテーマに被災地の現状と課題を伝えた。
- ・発災直後に岩手県東日本大震災津波復興委員会で委員長を務めた元岩手大学学長の藤井克己氏にスタジオで課題ごとに解説していただいた。

●藤堂ディレクターからの説明

- ・番組では、今年度多く起こるであろう仮設住宅から復興住宅へ移り住む予定の大船渡市の平山睦子さん、宮古市で伝統の味を守ろうとする菓子職人の田中和七さんと和吉さん親子、そして陸前高田市で漁業を復活させ家族でブランド牡蠣を育てる漁師の大和田信哉さん、光晴さんの3つの家族を紹介した。
- ・めんこいテレビでは被災地の定点観測をテーマにしているが、人についても継続して取材したいと考えている。

●出席した委員からの意見

- ・4年というのは被災者にとって一番しんどい時期。被災者の感情表現を抑えたコンパクトで分かりやすい作りが良かった。

- ・岩手県東日本大震災津波復興委員会の委員長、元岩手大学学長の藤井克己氏のきちんとした解説を聞くことができて良かった。
- ・細かいことだけではなく、大局を見たクールな作り方の工夫も必要ではないか。
- ・逃げずに真面目に正面からぶつかって取材していることに好感をもった。
- ・「扉が重い」「隣が遠い」などの言葉を引き出したのは、丁寧な取材の結果だと思った。今後は、弱者や一番厳しいところにも目を向けて取材してほしい。
- ・スタジオセットやアナウンサーの服装などにも震災特番に相応しい節度があった。
- ・現状をそのまま見せるだけではなく、分析力、取材力、データを用いてもっと切り込んでいけるところがたくさんあるはず。社会に対する訴求力を今後は期待したい。
- ・この番組を作り続けてほしい。全国放送など被災地のことを多くの人に知ってもらう努力も続けて欲しい。
- ・息子が後を継ぐことに対して父親が言葉を詰まらせるシーンが印象に残った。
- ・番組全体が淡々とした流れで、視聴者に考えてもらいたいという姿勢を感じた。
- ・被災者に対して「相談に来て下さい」といった姿勢ではなく「このようなことではどうでしょうか」という同じ目線で、具体的な提案をしていかなければ復興は進んで行かないように思う。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成27年4月15日(水) 産経新聞 東北版

※平成27年4月25日(土) 午前4時30分から午前4時45分まで
「めんこいテレビ批評」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

※次回は5月12日(火)12時より 当会場にて開催予定です。